

議事要旨

名称	阿佐ヶ谷駅北東地区まちづくりに関する意見交換		
日時	令和5年12月5日（火） 18時00分～20時00分	場所	杉並区役所
出席者	<p>○参加者： マイタウン阿佐谷協議会 16名</p> <p>●杉並区： 区長、政策経営部区政経営改革担当部長（事業調整担当部長）、 政策経営部施設マネジメント担当課長、都市整備部長、都市整備部まちづくり担当部長、都市整備部市街地整備課長、都市整備部拠点整備担当課長（事業調整担当課長）、都市整備部都市企画担当課長（事業調整担当課長）教育委員会事務局学校整備課長、阿佐谷地域担当副参事</p>		
配布資料			
<ul style="list-style-type: none"> ・次第、杉並区出席者一覧 ・阿佐ヶ谷駅北東地区まちづくりオープンハウス資料 令和5年12月5日版（抜粋） ・阿佐ヶ谷駅北東地区まちづくりオープンハウス案内チラシ 			
会議記録（要旨）			
<p>（区長あいさつ）</p> <p>阿佐ヶ谷駅北東地区まちづくりについては、これまで8月と10月に「阿佐ヶ谷駅北東地区まちづくりを振り返る会」を3回開催した。北東地区のこれまでの経緯や取組み、現時点での状況、区の考えなどを、正確に伝えようという目的だったが、様々な課題についてご意見をいただき、今後のまちづくりについて区民と共と考える契機になったと感じている。振り返る会の中で大きな計画に対する不安や疑問の声が多く寄せられたことから、その後、多くの資料作成と情報開示に努めてきた。本日の会は、振り返る会に参加していない方で、学校関係者、地域住民への情報提供と今後のまちづくりに必要な事は何かについて、意見交換するため、開催に至った。そして、私自身が参加し、本事業に対する皆様の意見とこれまでの皆様の活動について直接伺うことも大きな目的である。本日以降も、阿佐ヶ谷駅北東地区まちづくりを振り返る会参加者有志、阿佐ヶ谷の原風景を守るまちづくり協議会、杉一小を現在の場所に残したい現役保護者有志の会&OB保護者有志の会、杉並第一小学校学校運営協議会といった関係団体や杉並第一小学校保護者及び阿佐ヶ谷駅北東地区C街区近隣住民とも同様の意見交換を行う予定。また、オープンハウスでは、組織に属していない、個々のご意見も伺っていく。様々な意見を聞いたうえで、多角的、複合的に検討し区としての考えを1月下旬頃には示していきたいと考えている。本日は忌憚のないご意見を頂きたい。</p> <p>（区から阿佐ヶ谷駅北東地区まちづくりオープンハウス資料について説明）</p> <p>（以下、意見交換要旨）</p> <p>○参加者：本日の追加資料の内容は仮定の話が多く、事業の遅れに対する言い訳に聞こえる。どんどん進めて欲しいというのが阿佐谷地区町連の概ねの意見として捉えて頂きたい。地域が取り組んでいる防災対策の歩みを区も一緒に進めて</p>			

くれることを期待しているし、止めてはならない。都市計画マスタープランにも、阿佐谷地区は防災を基本としたまちづくりを進めると明確に記載されている。河北病院周辺の道路基盤は弱いと考えている。地区計画や土地区画整理事業の認可も受けていることを考えると、計画の遅れを区が主導するようでは不作為にあたるのではないのか。学校も病院も老朽化していて時間の問題でもある。これまでの防災対策を今後も繋げるためにも、事業を進めて頂きたい。阿佐町連としては、全員一致ではないが、概ね同様な意見と考えて頂きたい。

○参加者：区長が当選されて、皆様の意見を聞くといって振り返る会などが始まったと思うが、様々な意見をまとめて今に至っている。賛成派、反対派がいるのは当然だが反対派は説明会を壊すために来ていると思っている。様々な意見を聞くのは大賛成だが、反対派の意見が強い説明会ばかりが開催されて、賛成派の意見が無いかのように見えるのはおかしいと思う。だからこそ今日は賛成の意見を言いに来た。賛成の人はあえて意見を言わない人が多い事を区長は考えて欲しい。

○参加者：この話は、既に終わっていることと思っていた。もう一度、見直す会のような印象だがとんでもない。見直すかのような仮の話ばかりでは、計画が遅れるのはあたり前ではないか。見直す会は、どうして始まったのかが理解できない。阿佐谷は今テレビで取り上げてもらう機会も増えている、この機会を区は活かす取組をして欲しい。

●（区長）：私が公約で合意のない事業はやめると選挙で掲げて当選したので、投票してくれた人に責任を果たさないといけない。阿佐ヶ谷北東地区については、全ての区民が同じ方向を向いているとは感じておらず、それが対話の場を持つことで可視化された。杉並の中心地である阿佐谷のまちづくりを良いものにしたという思いは、私（区長）も同様で、まちづくりの方針が広く合意形成がされることは 100 年先を考えると大切なことである。そのため、一旦立ち止まり、情報を開示したうえで多くの区民が納得できる状況を作りたいと考え、振り返る会を開催した。振り返る会には延べ 200 名以上参加し、932 名の要望書も出ていることから、地域には様々な意見があることが見えてきた。皆が納得するためにも、期間をかけて、私が多様な意見を直接聞くため様々な対話を行っているところだ。

○参加者：区長が就任されたことで、可視化されていなかったことが、可視化されたというのはおかしい。区は地域の意見を踏まえで進めてきた計画なのではないか。可視化する範囲に抜け落ちていた部分があるというのならわかるが、全く可視化されていなかったという風に聞こえるのは納得いかない。後からきて自分がやったかのように言うのは思い上がり。

○参加者：私が所属する商店街では、この件に関して議論したことや意見を聞かれたことはないが、私は反対の立場です。賛成派の人は田中前区長ならわざわざこんな話はしなかったというが、過去の説明会に参加して様々な意見を申し上げたが、意見を取り入れてもらえなかった。岸本区長になってやっと話を聞いて

もらえた。関係者、利害関係のある人、無関心の人、様々な意見を聞きながら区は方針を決めて欲しい。私が一番反対するのは、水害と土壌汚染だ。災害時の避難所としては今の位置がいいのではないか。緑が壊れてしまったのは残念だが、せめて杉一は今のままにして欲しい。

○参加者：区と関係者はこれまでの信頼関係の上に成り立っていて、可視化された世界だったはず。商店街の理事長が商店街の発展を一番に考えるとき、地域のことは大事にしている。この計画は一住民として考えると素晴らしい取組だ。可視化されていなかったという区長の説明はおかしいのではないか。

●（区長）：様々な意見があるのは承知しているが、誰の考えが正しい、間違っているという場は出来るだけ作りたくない。議会ではこの計画に対して数年にわたって多くの質疑が行われ十分情報が提供されてこなかった事実はある。情報公開請求が多く出されているのは事実。可視化というのは、情報公開、情報開示を進めて区民の信頼を得ることを意味している。

○参加者：A案からB案への変更には唐突感あった。現地建替えは何度も説明会があったが、B案については納得のいく説明がなかった。もう少し情報の開示があれば区民の納得も得られたのではないか。阿佐谷地域区民センターが移転することになったのも、B案とはまだ決定していないのに、設計などが進んでいたのではないか。

●杉並区：阿佐谷地域区民センターの設計等は、B案決定後に行ってきたものです。

○参加者：議論が杉一小の移転に限られているが、根本にあるのは防災まちづくりの視点だと思う。区長は防災まちづくりについてどのような意見をお持ちか聞きたい。伺った意見を地元を持ち帰って説明することも今日参加した目的の一つでもある。今回の区画整理事業は、個人共同施行という形で、区の負担金が少ない方法で、道路の拡幅など防災まちづくりができる良い方法のはずだがどうなのか。もう少し説明も欲しい。

●杉並区：区画整理事業に伴い区が負担するところもあるが、他の関係権利者の協力があって出来ているところもある。民間事業者の協力も得ながら、防災まちづくりができてきていることは、個人共同施行の良いところだと思う。個人共同施行の実施にあたっては、杉並第一小学校の移転は関係者で一緒に進める出発点に含まれていて、教育環境の向上と防災力の強化の実現が、この事業の目的だ。杉一小の移転に伴う、水害対策や土壌汚染対策について、しっかりと対応することもこの事業には含まれている。

●（区長）：防災について重要だということは区長として当然認識している。狭あい道路の拡幅、木密地域の解消、耐震不燃化の促進などを計画的に進めると共に、自助、共助、公助の連携など区として取り組む重要性を理解している。阿佐谷においても防災は最重要課題だと認識しているが、防災のためという説明の一方で、杉一小の移転に伴い洪水の危険があるとの不安が広がっている。元々、区以外の2者でも防災まちづくりは考えられていたと認識しているが、小学校の移転が防災の観点から語られると違和感や唐突感を感じる区民がいる。それら相互の思いをきちんと整理しないとイケない。阿佐ヶ谷北東において、

防災が最重要課題であるということは全くその通りである。

- 参加者：せっかく地権者が土地を出し合ってやろうということで成り立っている区画整理事業に対して、杉一小の移転に伴う水害等の課題は技術的に対応可能なことであり、少し遠くなるという課題があることも認識しているが、杉一小の課題ばかりに焦点をあてて区画整理事業を止めてしまうことは避けなければならない。小学校だけの議論になると賛成反対の話になりがちだが、事業の全体像にしっかり目を向けて議論するようにすべき。
- 参加者：阿佐谷は50年前と大きく変わっておらず、もう少し住みやすい場所に変っていくためには、杉一小に愛着はあるがあそこに学校がなくても良い。杉一小の跡地に何が出来るかを皆で考えることがしたい。阿佐谷に若い人も増えている気がする中で、杉一小の生徒が減っているのは揉めている事も要因になっているのではないか。変更は難しいと書いてあるが、変更は無いと理解して良いか。区長が言う100年先も大事だが、我々は5,6年先には跡地に何か出来るかと期待して過ごしている。
- 参加者：河北病院の場所が水の問題があることは、行政は十分承知したうえで、地域の問題として対策を検討してきたはず。歴史的な課題を理解したうえで対策を行うことを、区長が中心になって発信することで。区への信頼も高まるのではないか。
- 杉並区：土壌汚染対策については、3者の協定の中で病院の責任において除去作業の実施が定められており、水害対策は区の事業として対応策の検討を進めることとなっている。それらに関する情報開示はこれまでもおこなってきたが、改めて「わかりやすくご説明する」ことに観点を置いて、引続き取り組んでいく。
- 参加者：自分は非常に厳しい学校環境で過ごした。校庭は狭くてプールもなくて寂しい思いをした。移転によって杉一小が広い校舎でのびのび過ごすことは素晴らしい。跡地には、阿佐谷に夢を持てる施設を作ってもらいたい。阿佐谷の先輩たちは、戦後の難しい時代に中杉通りを通したと聞いている。その努力でできた中杉通りに面した杉一小の跡地には、文化的な施設やジャズも演奏できるホールがあると良い。文化人も多く住んでいた阿佐谷に文化的なものがあるのか疑問を感じている。子供達も喜ぶ、文化的な施設を作ってほしい。
- 参加者：平成5年に区の呼びかけに応じて、中杉通りの沿道景観まちづくりの取組みに参加した。放置自転車の問題や、駅南口広場のトイレの環境が良くないことなど課題を挙げ、今の南口トイレの整備につながった。その後、まちづくりの活動を杉一小の児童に話したら、児童はみんな阿佐谷が好きだといっていたのをよく覚えている。多少課題があっても移転によって、伝統校が素晴らしい学校になることは誇りに思う。未来の阿佐谷を背負って立つ子供たちのため、良い学校、良いまちを作っていただきたい。
- 参加者：区内で生活する分には支障が無いが、区外から来た人からすると、駅前にホールや人が集まれる場所がなくて不便な街だと思う。杉並は文化の街として、駅前にはホールをぜひ作ってほしい。

○参加者：杉一小の校庭は狭いが、今でも子供は狭くてもものびのび過ごしている。それなりに育っていることを忘れないでほしい。

(区長あいさつ)

本日頂いた意見はしっかり受け止めたい。杉一小の跡地については、未来を感じる素晴らしい場所にしたいという思いをたくさん聞いた。それは、皆共通の思いである。区長として、多様な意見の区民が同じ土俵、同じ場で、お互いが尊重し合って議論することなしによい未来はないと信じているので、妥協せずに取り組んでいきたい。これまでの阿佐谷の歴史、関係者の合意、防災力の向上、教育環境の向上、商店街を活かしたにぎわいの創出など、大きな目的に立ち返って取り組んでいく。なぜ小学校が移転することになったかの経緯について説明が十分でなかったという事実を真摯に受け止める必要があると感じた。そのうえで、引続き対話を継続することをご理解頂きたい。

その他